

会誌発刊にあたっての想い

会長 二宮修二

今回の会誌は、久しぶりに「古野の妙蓮寺」に焦点を絞って調査し、研究したことを中心にして、報告書を作成することになりました。

この方法で多くの会員が「妙蓮寺」「宗教」「天台宗」「陰陽師」「地藏菩薩」など、この寺に関する事に思いを巡らすことができました。

昔の人々が、現在の人よりも精神的活動や感情が深かったような気がして、調べた方も多いと思います。実際この寺に陰陽師がいて、「祓い」「除災」「供養」をしていたことが、その心の奥底に、希望・安全・除霊に対してどのような気持が現在社会の人より以上に強かったのかと思う。

この寺の陰陽師がいて活躍していたことは、実証できる。ではなぜこの寺なのか。などを追及していくと興味がまた深まる。

前の人の方が精神活動が活発だったのか。例は適当ではないが、六十五年前「中学校の時に学校で問題が起こり、コックリさんを呼んで解決することになった。二人で竹を持ってするのだが実際やってみて、自然に竹が動いたのを覚えている。それは紛れもない事実で内心恐ろしかった。

その事は別にして、今回は、一寺を研究対象にしたが、深く研究できたのではないかと思う。寺に関連することや陰陽師に関することやその二つの関係はどうなのかを語りだすときりがないほどだが、それを事実に基づいて考えることが研究だと思う。皆さんの良くて下さっている手法です。

先日「大分県史談会連絡協議会」があつて、「挾間史談会」はよくやっていると褒められたことがあるのでこの機会に報告して、皆さんとともに喜びたいと思います。